

巻頭言

日本版司法取引と法人処罰

佐伯 仁志 3

特集 危険運転致死傷罪をめぐる諸問題

- ☆ 最近の危険運転致死傷罪に関する裁判例の概観
——その客観的構成要件該当性に関する問題を中心に——
内田 浩 4
- ☆ あおり運転と危険運転致死傷罪
古川 伸彦 10
- ☆ 危険運転致死傷罪と共同正犯
豊田 兼彦 18

特集 ハラスメントと刑法

- ☆ 日本におけるハラスメントの法規制——セクハラに対する処罰のあり方について——
嘉門 優 24
- ☆ ドイツにおけるハラスメントの法規制
井田 良 30
- ☆ フランス・ベルギーにおけるハラスメントの法規制
末道 康之 38

特集 取調べ録音・録画記録の証拠使用の在り方

- ☆ 取調べ録音・録画記録媒体の証拠利用について
宇藤 崇 44
- ☆ 取調べの録音・録画記録媒体の証拠使用の在り方——検察の立場から——
加藤 俊治 50
- ☆ 取調べの録音・録画記録媒体の証拠使用の在り方——弁護の立場から——
菅野 亮 60
- ☆ 取調べの録音・録画記録媒体の証拠使用の在り方——裁判の立場から——
島田 一 66

論説

- ・ 共犯と両罰規定
中谷雄二郎 73

刑事立法の動き

- ・ 「刑事訴訟規則等の一部を改正する規則」の概要
関 洋太・内山 香奈 84
- 【資料】 刑事訴訟規則等の一部を改正する規則 (平成30年最高裁判所規則第1号)
90

外国刑事法事情

- ・ 安全法の新構造——グローバル化した危険社会における犯罪の抑制——
ウルリッヒ・ズーパー/田口守一・松田正照(訳) 104

外国刑事法務事情

- ・ 英国刑事法務事情58——LVIII 2018年12月～2019年2月の主要動向——
清野 憲一 131

外国刑事法研究

- ・ ジェームス・チャルマース「人身に対する罪 (Offenses Against The Person)」
——比較刑法ノート(7)——
比較刑法研究会 144

刑事裁判例批評

- (379) 保護室収容中の未決拘禁者との弁護人による面会の申出に対する刑事施設の長の措置の適法性
——最(一小)判平成30・10・25民集72巻5号940頁、判タ1456号57頁——
田中 優企 153
- (380) 現金送付型の特殊詐欺事案において、指示を受けてマンションの空室に赴き詐欺の被害者が送付した荷物を名宛人になりすまして受け取るなどした者に詐欺罪の故意及び共謀があるとされた事例
——最(一小)判平成30・12・11裁判所ウェブサイト——
角田 正紀 160
- (381) ・第1審判決の間接事実の評価を覆し、情況証拠によって認められる間接事実を総合すれば、被告人が殺害犯人であることは合理的な疑いを差し挟む余地なく認められると判断した事例
・第1審判決は、取調べを録音録画した記録媒体を供述の信用性の補助証拠として採用しつつ、再現された被告人の供述態度から直接的に犯罪事実(被告人の犯人性)を認定しているといわざるを得ないとして、このような手続には刑法317条違反が認められると判断した事例——いわゆる今市事件控訴審判決——
——東京高判平成30・8・3裁判所ウェブサイト、判時2389号3頁、判タ1456号75頁——
青木 孝之 167
- (382) 医師法17条にいう「医業」の内容をなす医行為の意義——タトゥー事件控訴審判決
——大阪高判平成30・11・14裁判所ウェブサイト——
天田 悠 176

書評

- ・ 竹川俊也著『刑事責任能力論』(2018年、成文堂)
安田 拓人 184
 - ・ 石井由梨佳著『越境犯罪の国際的規制』(2017年、有斐閣)
城 祐一郎 186
- 福田平先生を偲ぶ
橋本 正博 100

◆最新刊

刑事法の理論と実務①

佐伯仁志・高橋則夫・只木 誠・松宮孝明 編

A5上製/312頁/4,200円

「理論と実務の交錯」において、実務家と研究者の諸論稿を掲載し、理論刑法学と判例・実務の架橋を目指す。「論争刑法」「理論刑法学の最先端」「海外の動向」において理論刑法学の活性化をはかる。研究者および実務家対象の最新かつ高度な専門書。

犯罪者処遇論の展開

石川正興 著

A5上製/268頁/6,000円

刑法、少年法、監獄法などの昭和の刑事法改正作業及び平成の刑事法改正作業を通じて、著者が一貫して追い求めてきた「犯罪者処遇」の基礎と諸相を展開し、その到達点を示す論文集。

更生保護入門 [第5版]

松本 勝 編著

A5並製/314頁/2,100円

第4版以降の法改正と統計数値を踏まえた最新版。新たに再犯防止推進法等に関する章を加え、社会福祉士や精神保健福祉士を目指す学生、保護司などの更生保護関係者にとって必読の書。

刑法講義総論 [新版第5版]

大谷 實 著

A5上製/638頁/4,200円

2009年の第4版刊行後の学説の動向に対応。基本書として欠かせない新しい判例を網羅的に取り上げ、その意義を明らかにする。「社会秩序維持主義」の基調を徹底する定評ある基本書。

刑法総論 [第2版]

浅田和茂 著

A5上製/598頁/3,700円

法改正、重要判例を盛り込み、刑法理論を解り易く解説し、判例・学説の批判的検討から「なるほどそうか」と刑法が見えてくる。基本原則を堅持しつつ、結果無価値論を徹底した基本書。

正当防衛の基礎理論

山本和輝 著

A5上製/270頁/5,500円

正当防衛の積極的な基礎づけが十分に論じられてこなかった現状がもたらす弊害を除去し、正当防衛の限界が問われる事案を検討するための確固たる基盤を提供する。

責任原理と過失犯論 [増補版]

甲斐克則 著

A5上製/272頁/4,200円

人間存在の本質に根差した責任原理の基礎づけから過失責任の意味を問直す。新たに「再論：『認識ある過失』と『認識なき過失』の区別」を収録し、過失犯論の再構成を試みる研究書。

未遂犯の理論

川端 博 著 刑事法研究 第19巻

A5上製/554頁/12,000円

制約原理としての「因果性と帰属生」が、科学的知見を基礎として、未遂犯の諸局面においてどのように現れるのかに重点を置いて未遂犯の問題点を検討し、未遂犯の理論化を図る研究書。

公正な裁判原則の研究

水野陽一 著

A5上製/226頁/4,500円

国際社会からの批判に耐えうる刑事手続全般の運用が求められる現在、ヨーロッパにおいて刑事司法の中心的基準とされる「公正な裁判原則」について、国家という枠組みを超えて考察する。

ストーキングの現状と課題

守山 正 編著

A5並製/414頁/5,000円

ストーキング被害が社会問題となっている現在、科学的知見に基づいた議論、諸外国の状況も踏まえ、考え得るストーキング対策への最も多角的で科学的なアプローチを試みる。

◆好評書

法益論——刑法における意義と役割——

嘉門 優 著

A5上製/308頁/6,000円

謙抑主義の観点から刑事立法を批判的に検討し、刑法解釈においても処罰限定的な基準を明示することが刑法学の最重要課題であるとの視点から、法益論の意義と役割を再検討する研究書。

強制採尿の違憲性

小早川義則 著 証拠法研究 第六巻

A5上製/226頁/5,000円

強制採尿の適法性を肯定する最高裁昭和五五年決定及びそれを支持する論者の見解について、アメリカ法と対比しつつ、実体的デュー・プロセスの観点から、その問題点を指摘する論文集。

日高義博先生古稀祝賀論文集 上巻・下巻

高橋則夫・山口厚・井田良・川出敏裕・岡田好史 編 A5上製/624頁・582頁/各15,000円

刑法総論 [第4版]

高橋則夫 著

A5上製/638頁/4,000円

刑法の行為規範と制裁規範という視点から犯罪論・刑罰論を構築する。最近の判例・学説を多数フォローし、私見を展開する。法科大学院・法学部生必読の本格的体系書。

刑事政策 [第2版]

川出敏裕・金光旭 著

A5並製/556頁/3,500円

刑の一部執行猶予制度の導入、少年法、刑訴法の改正等の最新の立法動向を踏まえ、刻々と変化する刑事政策の最新状況を理解するために有用な情報を可能な限り盛り込む定評ある基本書。



成文堂

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町514 価格は税抜きです
http://www.seibundoh.co.jp 電話03(3203)9201(代)・FAX 03(3203)9206